

皆さんのクラブは 10年前と同じ事を今も行っていませんか。クラブ内外活動をこの際 総点検することも必要なことではないでしょうか。

時は刻々と変化していることを考えますと 自らのクラブが時世に合っているかどうか会長をはじめとして クラブ員全員で総括し 変化・改革することも大事なことでないでしょうか。ここで ロータリー研究会での日本国内のデータをお知らせし ご参考に供したく存じます。

退会する人たち

退会者の会員在籍期間について

・3年未満 21% ・3~5年 19%
全体の40%の方が入会后 5年までに退会

このデータは 新入会員として入会后 比較的短年度で退会者が多く出現していることを示しています。同時に入会時の推薦者等による一定期間の支援等の配慮が望ましく このことより退会防止については 新入会員 当事者よりもクラブ側の改善が求められるものです。

会員のクラブ在籍年数について

・1年未満 7% ・1~5年 22%
・5~11年 18% ・11年以上 53%

このデータより 5年以上の在籍者が71%を占め特に11年以上の方が53% 実に会員の半数以上を占めていることもロータリーの特長かと存じます。

5年以上の在籍者は ロータリーの良さ 会員の交流等に満足感を持っていることが窺えます。その良さ特長を新入会員等に充分伝え理解させることが大事なことで退会防止の一助にもなると考えます。

会員の年齢構成について

・20~30代 2%
・40~50代 17%
・60代以上 81%

このデータより組織の高齢化が目立ちます。しかし このことが他の団体組織とは比較にならないロータリーの強さであり ロータリーの奥深い魅力となっていると思います。

このロータリーの魅力を発展させるためにも未来を担う若い良質な会員を勧誘し バランスのよい年齢構成を計ることが課題です。

若い会員の一層の理解と協力が必要と考えます。同時に60代以上の会員の後継者を積極的に勧誘し 老若両世代の会員構成を計ることがロータリーの強固な発展に繋がるものと思います。このようなことが能く機能した時 新入会員の後継者育成になると思うのです。ロータリーによる職業奉仕活動の新たな展開が期待されます。

女性会員獲得に目を向けよう

女性会員の割合について

・世界 16% ・日本 4.2% ・当地区 4.6%

このデータは 当地区の女性会員数は 日本国内の割合とやや同等ですが 世界との隔たりは強く 最近の女性の社会進出を考えますと 今後は一層の増強を計り 女性の能力を期待すべきです。

増強努力の推進について

70%の会員が入会以来 新入会員を推薦したことがないとの調査結果がございます。全会員の意識改革を計る必要があります。それには会長自らが率先垂範を示し 指導力を発揮することが 全会員に関心を高め 活力の満ちたクラブが誕生することに繋がると確信します。

ここで私自身 直前の年度 地区クラブ奉仕委員長をしており 委員会内に会員増強委員会・広報IT委員会を包含しておりました。

地区の公式発表によりますと 2010年7月1日現在 2,773名 2011年5月末日 2,812名で純増 39名となりました。しかしながら6月末に 64名の多くの方が退会いたしました。

総じて言えることは 昨年の7月以来連続 11ヶ月 会員増強いたしました実績を考えましても 地区といたしましては過去 15年間の会員減少の低迷から脱する気配も感じており 今後が期待されます。

皆様をはじめ 関係者のご支援とご協力の賜であり 感謝申し上げます。ロータリーの財産は 多彩な会員皆様で どのような困難がありましても乗り越える方々の集団です。どうぞ一層のご発展とご多幸をご祈念申し上げ 終らせていただきます。ありがとうございました。

「卓話」第2790地区 P.G 杉木 禧夫様

(本日のニコニコBOXは来週の会報に掲載します)



ロータリーの実践倫理

「最もよく奉仕するものは、最もよく報われる」 He profits most who serves best.

《会報・IT・雑誌
・広報委員会》

委員長：伊師 剛迪
委員：平田 洋一

副委員長：大川 隆永
委員：高崎 卓哉

社会奉仕基金
3,307円

WEEKLY REP  RT

国際ロータリー第2790地区第12分区
松戸北ロータリークラブ



ココロの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012 国際ロータリー・テーマ

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1・真実かどうか
- 2・みんなに公平か
- 3・好意と友情を深めるか
- 4・みんなのためになるかどうか

第1882回 例会 (第7週) 2011年 8月23日(火) 移動例会

国際ロータリー会長カルヤン・パネルジー
第2790地区ガバナー 山田修平
第12分区ガバナー補佐 安井克一
松戸北ロータリークラブ会長 鈴木悦朗
松戸北ロータリークラブ幹事 児山守治

例会日 - 毎週火曜日12:30より(第1例会18:30)
例会場 - 松戸市根木内249-7 北小金ポウル1F
事務所 - 松戸市根木内249-7 榊山安内
TEL/FAX - 047-344-5696 / 047-344-5696
Web/Mail - www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp

The Ideal of Service (奉仕の理想) にむけて夢を追いかけよう

社員ひとりひとりの経営意識が会社を 魅力的にする ~クラブもまた斯くのごとし。

会長 鈴木悦朗

今日は浅野久会員のびわ亭さんでの初めての移動例会です。「びわ亭」さんの「おもてなしの心」をご堪能ください。

さて、今月は会員増強月間です。会員増強は、地区でも当クラブでも本年度最も力を入れている目標です。今日は、私が地区委員のときにカウンセラーとしてお世話になりました杉木禎夫パストガバナー（1994-1995 第2790地区ガバナー）をはるばる茂原よりお迎えし、会員増強についてのお話をいただきたいと思っております。

杉木パストガバナーは、私どもの地区委員会のメンバーにとってロータリーや会社経営に関して最も影響を受けたロータリアンのおひとりです。茂原RC会長時代19名の会員増強を果たされました。松戸北ロータリークラブの発展のために、どうぞご静聴ください。

卓話

会員増強と退会防止について



国際ロータリー第2790地区
P.G 杉木 禎夫

8月は 会員増強及び拡大月間です。この度 鈴木会長から会員増強についての卓話との依頼があり 参上しました。

鈴木会長とは 地区WCS 委員会を通じ 私自身数年間カウンセラーを致しており昵懇の間柄でもございましたので お引き受け致しました。

会員増強については 私自身が会長年度に経験した話を鈴木会長が記憶されており そのことを鈴木さんの言葉を借りれば ポジティブに話して欲しいというものでした。期待に応えられるか心許なく存じますが私自身の経験を申し上げご参考に供したく存じませぬ。

増強を果たした時の時代背景

私の茂原RCでの会長年度は 1995-1996年(H7-8)で特に思い出すことは **平成 7年 1月17日 朝方に突然発生した「阪神・淡路大震災 M 7.2」** でした。又 同年は東京でも重大事件 地下鉄サリン事件がございました。又 翌年は「住専処理法」が成立し平成 9年には消費税が 3%から 5%へ増税となり 加えて北海道拓殖銀行が経営破たんしました。山一證券が自主廃業し 経済状況は誠に混沌とし現在の世の中と相似していたように思われます。何故このような時代背景を申し上げるかといいますと 16年前のことでもあり 皆様もやや今より良き時代であったと思っ居るのかと勝手に解釈し 現況経済に類似していたことを申し上げ 会員増強自体も簡単ではなかったことを理解賜っておきたく思ったからでございます。

私の所属クラブでもある茂原ロータリークラブは本年度創立 55年となり 古参会員も多く例会場である茂原商工会議所からの移転は困難を極めておりました。当時の会員数は**65名前後**で 例会場は設備も古く 何よりも手狭であったことです。駐車場も数台のスペースで不便でした。加えて食事内容等の改善要求もあって数年前より歴代の会長が会場移転について検討しておりました。このような事情の中で私は会長エレクトに指名された訳ですが 最初に考えたのは茂原RCの将来構想でございました。

(次ページにつづく)



幹事報告：児山守治

- 例会変更のお知らせ
松戸西ロータリークラブ
8月31日(水) 休会
- 地区大会のご案内
11月5日(土)・6日(日)
- ロータリーレート
1ドル・・・78円



移動例会



中長期計画がもともになった

早速「クラブ中長期計画委員会」を設立し クラブの社会奉仕・国際奉仕の活動等 会員規模等検討した結果クラブのより発展を期すためには会場移転が必要であるとの結論に達しました。

当然ながら議論は百出でしたが 会員の年会費は据え置きとし プラザ平安茂原の会場は町の中心からやや遠くなることを考慮し会場までの無料送迎等を調整した結果 会員の賛同を得 私の会長就任年度平成 7年 7月 1日よりプラザ平安茂原の会場移転が実現しました。

会議所よりプラザ平安茂原に移転となりますと当然ながら会場の雰囲気も良く食事等は言うに及ばず 駐車場も広く便利になりました。しかしクラブの運営費は増大いたします。移転条件に年会費は据え置きとしましたので その経費を賄うためには会社経営に例えるならば増収増益を計らねばならぬと云うこととなります。

このことはクラブ会員の増強・増員を意味し その会員純増 最低 12名を必達といたしました。平成 7年 1月 年頭だったと思っておりますが当時上場会社である大多喜ガス(株)の社長をされていた大谷真夫会員にこの顛末を話し理解を頂き 会員増強委員長をお願いしました。約 6ヶ月間委員長をはじめ多くの方々のご協力をいただき 7月の初例会時に 16名の新入会員数を迎えることが出来ました。その結果同年の 11月末までに純増会員数 19名クラブ会員数は 87名に達しました。大谷委員長をはじめとして関係者一同目的を果たし喜びを分かち合ったことが思い出されます。

又 これ以上増強の活動をいたしますと 茂原の既存 2クラブ 即ち茂原東RC・茂原中央RCに影響を与えるのではと考え 12月より自粛し中止することに致しました。会員純増 12名の目標を大きく上回り 19名に達しましたので会場移転によるクラブ運営費の問題も解決し年度末の決算も大幅な黒字を計上し安堵したことが記憶に残っております。又 例会場を変更し新入会員も増やしたことから 例会の充実を計りたいと考え プログラム委員会(林委員長)の努力もあり 卓話にNHKアナウンサー須磨かつえ氏 歌手の畠山みどり氏等 異色の人材をお願いし大変好評であったことも思い出されます。親睦活動(吉田委員長)にしましても久慈川に一泊二日のゴルフ観光等 又納涼会等に・・・茂原カントリー倶楽部を貸し切り会員家族で楽しんだりいたしました。特に印象深いのは 年度の後半 会員家族 14名でカナダ・カルガリーで行われたロータリー国際大会に出

席したことやゴルフ・観光旅行等が懐かしく記憶にございます。

私自身 会場移転に伴い会員増強が大きな課題となりその目的貫徹を関係者の方々と共有し充実した年度となったことが振り返ると絆を強くしたと思っております。

増強の必要を共有しているか

会員増強についても私の経験から申し上げますとクラブ会長はじめ関係者が クラブ目標を明確にし喫緊の課題とし短期集中することも一案かと思っております。

ご周知の様にロータリー運動の主役はクラブでその管理運営のほとんどは当然とし奉仕活動のすべてはクラブの自主性に任されております。毎年RIの会長は 年初 判を押すがごとく必ずと言っていいほど会員増強・拡大を強調いたします。当然ながら各地区のガバナーは RI役員としての責務から それを督促いたします。しかし実情は大変厳しく各クラブにもいろいろな事情もあり簡単には会員増強はおろか減少の状況が危惧されております。ロータリークラブの成り立ちからいっても RI会長 あるいはガバナーが大上段で会員増強を上意下達をいたしましても浸透しないことも当然かと思うのです。

クラブ自体が何を考え行動するか その主体は重ねて申し上げますが クラブにあるのですからクラブにとってその増強が、どの様な意味を持つか クラブの判断こそが大切であると私は思うのです。その意味からもクラブを預かる会長の責任は重く 会長次第でクラブの将来が占えると云っても過言ではないかと考えます。

ところが最近のクラブ事情を私なりに解釈しますとクラブ指導者は現況経済を考慮すると会員数も現状維持すれば、よろしいのではと思っ居るように思えてなりません。

一般的に クラブが現状を保持したところでも その会員の平均年齢は確実に上昇し数年後には活力も減退してしまう事が懸念されます。

どのような組織・団体も時代の変化に対応する能力を持たねば衰退すると云われています。

ポール・ハリスは次のような言葉を残しております。「世界は常に変化している。ロータリーは この世界と共に変化し成長していかねばならない。ロータリーの物語は幾度も換えられねばならない。」このような言葉からも クラブは若い人たちを入会させ その行動力を期待する新陳代謝を図らねばならないと存じます。

(次ページにつづく)



ロータリーの奉仕哲学「超我の奉仕」 Service above self

このServiceの意味は人のためにつくすこと。ビジネスでもServiceの心がけはシェルドンの言葉を借りれば「永続的な顧客を得る道」であり、信用を増して繁栄への道につながる。